

学校だより



NO.4
東京女学館小学校
令和2年7月31日

燃えろ炎の中で／その身を焦がして／生まれ変わ／＼小さな鳥
のように／僕らの想ひも／きらどよみがえる／フェニックス／ほら
誰かが笑つた（山下達郎「フェニックス」）

神話と呼ばれるものはすべてが虚構というわけではなく、どこに必ず現実と結びついているところがあるようです。

島根県松江市に「黄泉平坂（よもひらさか）」という場所が実在するのを見て驚きました。古事記や日本書紀に登場する地名です。死者となつたイザナミに黄泉の国で再会しようとしたイザナキですが、死なかなか姿を現さないイザナミにしひれをからしてその姿を見てしまった、そこには体にウジ虫がわざ、ふた目と見られぬ妻の姿があつた、「あなたは、わたしに恥をかかせましたね」と怒ったイザナミ。恐ろしくなつて逃げライザナキをイザナミが追いかけてました。そこで、イザナキは黄泉比良坂にあつた大きな岩で道をふさいでしまった、という逸話です。

蘇る（よみがえる）という語はこの黄泉の国から帰ることを語源とします。死んだもの、死にかけたものが息を吹き返す意味となつた語です。

蘇ること、永遠の命を求めるのは古今東西同じのよう、ヨーロッパでも伝承に登場する架空の鳥としてフェニックスがあります。大変長い壽命と美しい姿を持ち、日本では不死鳥や火の鳥などの呼び名でも知られます。その肉と血には永遠の生命を授けてくれる効果があると言われ、ゆえに古来よりさまざまな人々がこの鳥を求めてきました。どちらで、これを題材に手塚治虫さんの漫画になつたことを「奇知の方も少なくない」としています。

宮崎駿さんの「天空の城ラピュタ」のクライマックスの場面のムスカのセリフに「ラピュタは滅びない。何度も蘇るのだ。ラピュタの夢こそ人類の夢だからなのだ。」といふのがありました。けれどもシータはこれにゴンドラの谷の歌・土に根をわろし、風とともに生きよう。種などともに冬を越え、鳥とともに春を歌おうをひいて「土から離れては人は生きられない」と言っています。

7月7日に1・2年生は七夕祭りを行いました。そして玄関先には七夕飾りをかざしてたくさんのお願い事をしました。まだ私たちの新型コロナウイルス感染症との対応は続いています。そして、子どもたちの願いを受け止めて、ポストコロナの社会をどのように考えるかは大人に課せられた大きな課題です。けれどして元の社会に戻ることではないでしょう。それはコロナウイルスへの対応をめぐって差別や偏見、圧制など暴力、虚偽と分断など今まで内包されていた社会の暗部が露呈しているからです。学校教育も例外ではありません。新しく生まれ変わる意方が私たちに試されているように思います。

1学期のおもいで オンライン授業編



「オンラインでのじゅぎょう」

コロナウイルスが日本に広がり学校に行けない日が続きました。そんな中で「やつたー」とさけびました。ひさしぶりにお友だちや先生にオンラインで会えると思うと、とびはねたいほどうれしい気持ちになりました。国語や算数のじゅぎょうもオンラインでうけられる事になり、ワクワクした気持ちになりました。そして私は今、じゅぎょうを一生けんめい受けたいと思っています。

「自分の意見を持つ」

『オンライン授業』は、私にとって初めてのことでした。オンライン授業では、大変なこともありました。例えば、でんぱの状きょうで、先生の声が聞こえなくなりました。でも楽ししいことで、先生の声が聞こえなくなりました。でも楽ししいことで、登場人物の気持ちを話し合いました。『白いぼうし』の授業では、グループセッションで、登場人物の意見にさんせいしたり、はんろんしたりしてみると、どんどん自分の考えがうかんできました。「お友達の意見を聞きながらも自分の意見をもつ。」と先生がおっしゃっていました。今から思うと「たしかに。」と思いました。また、オンライン授業を受けるかもしません。なので、オンラインだからできなくて、オンラインでしかできないことをやつていきたいです。

「うまく伝わったよ」

オンラインの国語のじゅぎょうで、『絵を言葉で伝えよう』をしました。私たちがからオンラインで顔合わせができるといふ連らくがあり、私は心中で「やつたー」とさけびました。ひさしぶりにお友だちや先生にオンラインで会えると思うと、とびはねたいほどうれしい気持ちになりました。国語や算数のじゅぎょうもオンラインでうけられる事になり、ワクワクした気持ちになりました。次は発表です。私はかく人たちの気持ちを考え、ゆっくりと文章を読みました。発表した後、うまく伝わったかい配でしたが、みんな上手に電車の絵がかけていました。3月から休校になつてさみしかつたけれど、オンラインじゅぎょうを一生けんめい受けたかったです。

「みんなとオンラインで心をつなげた」

東京女学館小学校で初めてのオンライン授業がありました。その理由はコロナウイルスで直接学校へ行けなくなつたからです。

初めてのオンライン授業の時は、5年生の先生は誰かなと思ったり、クラスは誰と一緒に一緒に思つたり、心のどきどきが止まりませんでした。どきどきの声でたくさん意見を出し合つたので、分かりやすいけれど、オンライン授業の2回目の時に簡単に簡単な自己紹介をすることができました。次は発表です。私はかく人たちの気持ちを考え、ゆっくりと文章を読みました。発表した後、うまく伝わるとクラスのみんなのことを知ることができた気がして次から授業が楽しみになりました。それにずっと、コロナウィルスのことでみんなと顔を合わせることもできなければ、オンラインでみんなの明るいお顔が見られてとてもホッとしたしました。

コロナウイルスで3ヶ月も学校が休みで、みんなと会えない寂しい私をオンライン授業は救つてくれました。毎日たつた2時間か3時間でしたが、とっても楽しいわくわくする時間でした。私にとってオンライン授業はみんなの心をつなげた素敵な授業でした。

4A 児童

『オンライン授業』は、私にとって初めてのことでした。オンライン授業では、でんぱの状きょうで、先生の声が聞こえなくなりました。でも楽ししいことで、登場人物の気持ちを話し合いました。『白いぼうし』の授業では、グループセッションで、登場人物の意見にさんせいしたりしてみると、どんどん自分の考えがうかんできました。「お友達の意見を聞きながらも自分の意見をもつ。」と先生がおっしゃっていました。今から思うと「たしかに。」と思いました。また、オンライン授業を受けるかもしません。なので、オンラインだからできなくて、オンラインでしかできないことをやつていきたいです。

「分かりやすかつた授業と見えななかつた星」

4B 児童

五月からオンライン授業が始まって、全く違う授業の受け方にになりました。みんなでワイワイする授業にはならなかつたけど、グループ分けした時は、話すことができました。理科や図工で、パワーポイントを使って、写真や資料を画面で見てくださいだったので、分かりやすかつたです。理科で、夏の大三角形の説明がありました。家の屋上から見かけれども、毎日くもついて何も見えませんでした。でも、先生が教えてくださったアプリを使って空を見ると、たくさんの中の星がきれいに見えました。本当に見えたらしいなあと思いました。

5A 児童

オンライン授業がありませんでした。その理由はコロナウイルスで直接学校へ行けなくなつたからです。

初めてのオンライン授業の時は、5年生の先生は誰かなと思ったり、クラスは誰と一緒に一緒に思つたり、心のどきどきが止まりませんでした。どきどきの声でたくさん意見を出し合つたので、分かりやすいけれど、オンライン授業の2回目の時に簡単に簡単な自己紹介をすることができました。



